

## 空中給油機KC-130の鹿屋基地における訓練概要等に関する住民説明会概要

開催日時	平成27年7月14日(火) 18時30分～20時10分
開催場所	西原地区学習センター
出席者	83人(西原1丁目1人、西原2丁目西4人、西原2丁目東3人、西原2丁目中央3人、西原3丁目5人、西原4丁目16人、新生町11人、上野町11人、今坂町2人、その他地区27人) ※報道関係者除く 防衛省、市政策推進課
概要・主な意見等	<p>○ 市民に対して丁寧に説明するという姿勢は分かるが、空中給油機、オスプレイを見たこともない、音も聞いたことがない。ビデオ等を通して説明すべきではないかと思う。今後、そういった説明をする考えがあるのか。海兵隊の役割を教えて欲しい。市の広報だと思うが、何故、写真撮影をするのか。発言者が萎縮するのではないか。</p> <p>→ 今後、紙だけではなく、ビデオがいいのか、飛行しているものを実際見てもらうのがいいのか等、関係機関と調整したい。海兵隊は、確かに紛争地帯の最前線で活躍しているが、航空部隊、歩兵などいろんなセクションがある。また、災害派遣でもフィリピンの大型台風の際、海兵隊所属のオスプレイに海兵隊が搭乗し、物資の輸送等で活躍したと承知している。いずれにしても、こういった訓練が必要である。</p> <p>5月18日の政務官来庁から、いろんな形で市の広報紙で市の取組を紹介している。ご指摘のとおり、萎縮される方もいらっしゃるかもしれないので、写真は使用しないよう対応したい。</p> <p>○ 資料の訓練移転の内容を見ると、西日本に責任を押し付けているように感じられる。資料には、東日本、北海道が出ていない。</p> <p>事故があった場合、国土交通省等が検査に入るといったが、沖縄の国際大学の事故の時、実際国土交通省は入ったのか。</p> <p>アメリカの報告をそのまま受けて、アメリカの飛行機は安全だとあなた方はいうが、100年落ちなくても101年目に落ちたら大変なことである。</p> <p>→ 説明をしたとおり、米軍基地負担の軽減ということで本土に分散するということがある。中国、北朝鮮、南西方面への対処ということも念頭に防衛省も取組んでいる。防衛省としては今まで部隊の無かった奄美等にも部隊を配置している。岩国からの訓練の一部移転については、厚木からの空母艦載機、KC-130の常駐という負担を何とか鹿屋へその一部をお願いできないかということである。</p> <p>沖縄国際大学での墜落事故の際、日本側の調査、警察とか消防が入れなかったということは事実であるが、その後日米間で協議して、全部ではないが一部日本が入れるようになったと承知している。飛行機の安全性については、事故がゼロかといわれればゼロではない。その可能性を極めて低くしていく。オスプレイの安全性について、平成24年の9月、日本政府が検証チームを作って、事故原因究明について一般的には他国の調査をすることは珍しいが、実際に検証したと日本政府として公表している。他国の作った航空機だが、その安全性については我々もしっかり把握されていると認識している。ハワイでの事故原因については、早急に透明性を持っていきたく思っている。</p> <p>○ 鹿屋が選定されたかということについて、訓練上のニーズとはアメリカ軍にとってのニーズのはずである。ニュースで、石垣市長は今の安保法案が通ることを期待しているとあった。石垣市に訓練に移せばいいのではないか。希望をしてないところを選定するのはおかしい。</p> <p>騒音というのは不快な音であるのに、資料のようにピアノと比べるのはどうかと思う。どの程度不快な音であるということを示して欲しい。撤収を含めて夜10時まで訓練をするとある。昼と夜とでは音の感じ方も違う。騒音区域も変わってくるのではないか。</p> <p>低空飛行など、日米の合同委員会で、住民の意向を踏まえながら、十分米側と協議</p>

しているというが、米軍は航空法に縛られない。訓練が何年も続く中で、今後、綱紀がたるんだり、低空飛行をしたり、場周経路を大きくそれた場合、断固訓練中止を申し入れる気持ちはあるか。

オスプレイは、固定翼で滑走路に進入するのか。

2006 年は駐留という話が上がったとき、鹿屋市は断固反対した。10 年後鹿屋に米軍が、駐留するようなことが無いとは言えるのか。不平等な日米地位協定等があるが、国を守るためには、アメリカに強くものを言って欲しい。

→ ニーズは、米軍の運用上、訓練上のニーズである。鹿屋基地を選定したからといって、地域の一定の理解も得ないまま進めるつもりはない。

騒音の問題で、ピアノと飛行機の騒音は音の種類が違うということは認識している。資料には数字しか書いていないので、どのような音かということで環境省の基準、目安を載せている。コンター図については、米側からデータとして飛行回数、飛行パターン、音のピークレベルなどで予測したものである。仮にローテーション展開を受入れていただいた場合には、しっかりと運用実態を把握した上で騒音度調査をし、その際、コンターを引く場合、夜間の音は昼間の倍として指数にして単位化している。これは環境省の基準でやっている。

合同委員会のことについて、確かに協定の改定はしていないが、現実的ということで、今まで運用の改善ということで対応してきている。KC-130 の訓練については、3つの訓練しかしない。低空飛行については、航空法が地位協定上適用されないという指摘もあるが、最低安全高度は守るということで日米間で合意している。

オスプレイの着陸については、固定翼のままでは着陸は難しい。ヘリの離着陸機能もあるので、災害地などではヘリポートに真っ直ぐに降りるが、通常からそのようにしていると多量に燃料を使い、航続距離が保てなくなり、最大限能力を発揮できない。

2006 年に鹿屋市に米軍が駐留するという話があってから今回の訓練移転の内容を説明するにいたった。今後米軍が駐留するという事はない。この訓練だけを行う。

○ 基地の近くに住んでいるが、一番関心があるのは騒音の問題である。地上給油訓練を夜間もするが、どのくらい時間がかかるのか。また、コンクリート舗装をする箇所に防音壁を整備することは考えていないか。通り過ぎる騒音と一箇所から何時間も発生する騒音は違う。

→ 騒音でご負担をかけていることは大変申し訳ない。地上給油訓練については月 2 回で 6 時間、日中及び夜間なので夜間も行う。防音壁については、現在予定はないが、ご指摘を受け止めて、今後整備の可否も含めて検討したい。

○ 鹿屋市外に住んでいるが、騒音問題について離着陸の飛行ルートは P3C と同じルートなのか。通常の離陸をする時、私の家の真上を通る。畜産が盛んなので騒音が気になる。行政区域内の説明会でなく、飛行ルートが分かっているのであれば、ルートに関係のある所で説明会ができないものか。高度は、どのように定められているのか。訓練については、日中、夜間とあるが具体的な時間はどうなっているか。

→ 資料にあるルートは P3C のルートである。このルートに 2、3 機重なると、管制塔からもう少し先に延ばすようにとの指示を出すこともある。洋上訓練をして帰ってくる場合で違うパターンをとることもある。高度については、KC-130 と P3C は同じ高度をとる。畜産が盛んということも承知している。飛行ルートに関係する説明会については、調整させていただきたい。

○ 7、8 年前、鹿屋市のグラウンドに 8,200 人ほど集まって、鹿屋市として反対の意思は示されたと思っている。資料に示してある飛行コースに学校は何校あるか、市民は何人住んでいるか分かっているのか。

→ 学校がいくつあるか、人が何人住んでいるかについては把握していないが、多数の学校があり、多くの人が住んでいることは承知している。地上給油訓練だけかという

ことについては、今回説明している地上給油訓練、離発着訓練、荷下訓練の3つを今後広げて行こうということはない。オスプレイについては、地上給油訓練にきて、戻る。

○ 騒音について、現在、朝4時位からエンジンがかかる。今回の訓練で早朝の訓練は絶対にならないのか。

→ 早朝のP3Cの騒音でご迷惑をかけていることは、基本的には飛んで戻ってきたP3Cによるものだと思う。米軍が4時以前に来て早朝から訓練を行うということは想定していないと思う。自衛隊も特殊な事情が無い限りは6時以前から行うことはない。

○ 日本で訓練をしなければならないのであれば、基本的には、鹿屋にオスプレイ、輸送機を受入れざるを得ないと思っている。ただし、家畜に被害が出たり、早朝の騒音、個々にしっかり対応していただきたい。何十年前にも田崎、野里地区の方は移転等もしている。今の訓練時間、内容がなし崩し的に増えていくことも懸念されるが、そういうことがないようにしっかりと市民のことを考えて対応して欲しい。

→ 米側も地元への配慮は十分考えている。今考えている訓練が拡大することがないように、我々としてもしっかりと米側と調整して、しっかり対応していく。

○ 沖縄の基地負担を本土に分散するということは、アメリカが言っていることか。沖縄の人はそうは思っていない。アメリカは何のために鹿屋で訓練するのか。アメリカ軍はアメリカに帰っていけば何の問題も無い。

→ 政府としては日米安保体制のもと、安全保障環境は厳しくなっており、日本を守るために米とはパートナーということだと考えている。

○ 絶対に駐留することは無いといっているが、行政の絶対という言葉ほど信じられない。近くに住んでいるものにとっては、騒音、安全性が一番気になることである。住民を危険にさらすことが、住民を守るということになるのか。資料に250mでの騒音が書いてあるが、離着陸の時はもっと低い高度になり、騒音ももっと大きくなるのではないか。

→ 高度について、離着陸の時、滑走路近くの方は、かなり低い高度で航空機を見られていると思う。それ以外の理由で高度250mという低い高度をとるということは基本的にはない。

○ 訓練は月20日を越えないと説明があったが、一番心配するのは、これがなし崩し的に行われていくことである。防衛省が米側にどれほど意見を言えるのか。この訓練を受入れることで、鹿屋、大隅の産業が打撃を受けるのではないか。

→ 説明したように、訓練日数は最大限で20日ということで、これを色々組み合わせることによって少なくしていくということで今後米側とさらに交渉していきたい。畜産等に対する懸念があることは認識している。

地元への説明状況等については、責任を持って米側に伝えて行く。